

佐世保特別支援学校は、佐世保市と佐々町の特別支援教育コーディネーター連絡協議会の事務局を担っています。連絡協議会は、地域の特別支援教育の理解・推進を目的とし、その取組の一つとして、全体研修会を実施しています。佐々町は、8月7日に幼稚園、認定こども園、保育所、小・中学校、高等学校の先生方と協力し、全体研修会を佐々町地域交流センターで開催しました。講義や演習を通して、「褒める・認める支援」について、特別支援教育の観点を踏まえながら学びを深めました。今回はその全体研修会の様子を紹介します。

テーマ：『効果的な支援の在り方～褒める・認める支援～』

講義・演習：「効果的な褒め方・認め方」

講師：佐世保特別支援学校 副校長 大町江里

【主な講義演習内容】

1 「褒めること」と「認めること」

「褒める」：大人側の基準で一定の基準に達した、水準を超えたと評価するとき

「認める」：子供の基準で評価するとき

2 「褒められること」「認められること」の効果について

(1) その効果とは？

【ワーク】「褒められること・認められること」の効果を思い付くだけ挙げる。(個人→グループ→全体)

(2) 「褒められること」「認められること」と自己理解

○ 自己理解を深めるには・・・ 自己分析・内省、アセスメント、他者からのフィードバック など

○ 自己理解を深めることによって・・・ 他者理解から相互理解、自己実現につながる。

3 効果的な「褒め方・認め方」!? ← 正解はないが最適解を考えていく

(1) 聴いて、見て、知ること

○ 聴き上手(相づち・表情) ○ 見守る、任せる勇気・根気 ○ 丸ごと受け止める姿勢・意識

(2) 当たり前のこと、無意識の言動

○ 「気付いていない自分」に気付かせる

(3) 実況中継(長崎大学 岩永教授による)

○ 勇気付け、成功体験につなげる

(4) リフレーミング

○ 物事の枠組みを変え、違う視点から見る

【ワーク】自分の短所・欠点を3点挙げ、リフレーミングしてみましょう。(個人→グループ)

(5) 第三者の活用

○ 当事者よりも、第三者が発信した情報が信頼を得やすいという心理効果

(6) I(アイ)メッセージ 「先生は、～」

(7) 事例：正解ではなく、最適解を考える

【ワーク】事例を読んで、Aさんに掛ける言葉とその言葉(表現)を言おうと思った理由を協議する。

【研修会後のアンケートから(一部紹介)】

・研修後、実際に子供たちと関わる際に褒める、認めるを意識でき、いつも以上に子供たちが正直な気持ちを言葉にして発してくれたので、効果を感じることができた。耳、目、心を傾け沢山の想いを引き出し、認めていけるように実践していきたい。(保育所)

・子供も大人も自分自身も、認めることの大切さを実感しました。日々の生活の中で一人ひとりに向き合うこと、よく見ていこうと思います。自分が安定しないとうまくいかないの、自分にはリフレーミングでいこうと思いました。(小学校)

・私たち教職員の立場に寄り添いながら、大変分かりやすく話してくださって、頭に入ってきました。グループワークの形式も意見が出しやすく、とても良かったです。知識として知ってはいたことも、実際にグループワークで意識しながら取り組んでみると、なるほどと効果を感じたり、意外に難しく日頃から使うことが大事と感じたりするなど、考えさせられました。他校種の先生方の視点や具体例も聞くことができて大変参考になりました。(中学校)

・褒め方・認め方について、最適解を探すことや探し方のヒントを沢山顶きました。他校種の先生方との意見交換も楽しかったです。ありがとうございました。(高等学校)



この全体研修会に加え、8月19日佐々町教育委員会と共催で「佐々町特別支援教育担当者研修会」を開催し、特別支援教育に携わる先生方で情報共有や協議を行い、研修を深めました。